

和服

目次

1.	概要	・ ・ ・ ・ ・	2
2.	商品知識		
	2-1.着物の種類	・ ・ ・ ・ ・	3-5
	2-2.帯の種類	・ ・ ・ ・ ・	6
	2-3.その他小物	・ ・ ・ ・ ・	7
	2-4.素材の種類	・ ・ ・ ・ ・	8-9
	2-5.染め、織りによる分類	・ ・ ・ ・ ・	10
	2-6.産地と有名ブランド	・ ・ ・ ・ ・	11
	2-7.売価目安	・ ・ ・ ・ ・	12
3.	実践		
	3-1.サイズ	・ ・ ・ ・ ・	13
	3-2.たたみ方	・ ・ ・ ・ ・	14

更新履歴

更新日付	更新内容	担当部署	担当者
2025/11/25	新規作成	マニュアル整備担当	T.Kanda

I. 概要

①リユース需要の背景

オフハウスにおいて、和服・着物の取り扱いは現在、「供給過多」と「需要の変化」による大きな転換期を迎えています。着るための服としての価値は下落傾向だが、素材や海外向けとしての価値が見直されている」という状況です。

②傾向

世代交代と断捨離「タンス在庫 20兆円」の放出

着物を日常的に着ていた世代が高齢化し、遺品整理や生前整理、実家の片付けなどで一説には20兆円とも言われている大量のタンス在庫が市場に流出している状況です。

保管場所の問題

マンション暮らしなどの現代のライフスタイルでは、着物を保管する桐箆笥を置くスペースがなく、「とにかく手放したい」というニーズが圧倒的です。

着付け技術と着用機会の減少

成人式や結婚式はレンタルで済ませるのが主流になり、「自分の着物を持つ」という文化が薄れました。また、自分で着付けができない人が大半であるため、中古で安く買っても「着られない」というハードルがあります。

インバウンドとリメイク（需要の変化）

外国人観光客: 日本独自の柄やシルクの質感を好み、ガウンのように羽織るローブとして、あるいはインテリアとして購入するインバウンド需要が増加しています。オフハウスでも観光地に近い店舗では、外国人が主要な購入層になっています。また和柄の生地は新品で買うと高価なため、リメイク作家や手芸愛好家が、オフハウスを格安の生地屋として利用しています。

🔄ポイント

和服ジャンルの構成比は1.1%（直営店舗）、査定の見極めの難しさやスペース効率からも店舗規模によっては縮小、取扱中止をしているジャンルでもあります。一方で地域店舗では売れ残る可能性のある高額な帯や有名産地の着物も、オフモールを活用することで全国のコレクターへ向けてリーチさせることが出来るようになりました。

着物から、帯、和装小物（わそうこもの）まですべて買い取り・販売します。
持ち込まれる90%以上が女性の着物です。

見極めが重要

安価な商品（または素材として）

- ・ウールやポリエステルなどの化学繊維（化繊）
- ・喪服、黒紋付（需要がほぼゼロに近い）
- ・丈が短いもの（昔の日本人の体型に合わせたサイズ）

高級品

- ・正絹などの素材、紬などの織りの見極め
- ・証紙（産地証明）がある伝統工芸品
- ・有名作家の高級着物 など

2. 商品知識

2-1.着物の種類 代表的な着物とそれぞれの着用シーン

女性の着物は、フォーマルな儀式からカジュアルな日常使いまで着用シーンによって様々な種類があります。

1. 振袖（ふりそで）

未婚女性の第一礼装で長い袖丈が特徴です。袖の長さによって、大振袖・中振袖・小振袖の3種類に分類されます。

大振袖：袖丈114cm前後。主に結婚式や披露宴で着用

中振袖：袖丈100cm前後。主に成人式で着用

小振袖：袖丈85cm前後。お茶会やパーティで着用



2. 黒留袖（くろとめそで）

既婚女性が着る最高格の着物、和装の第一礼装。生地の色は黒色で裾には絵羽模様（えばもよう）と、背中・両後ろ袖・両胸の五つ紋が入っているのが特徴です。帯は、錦織や唐織の袋帯か、丸帯を合わせるのが基本です。結婚式・披露宴に出席する新郎新婦の母親や仲人のみに限られます。



3. 色留袖（いろとめそで）

既婚・未婚問わず着用できる格の高い着物です。丸帯や袋帯を合わせます。上半身は無地で、裾のみに絵柄が広がっている点が特徴です。格の高さや着用シーンは紋の数によって変わります。

五つ紋：第一礼装。親族の結婚式・披露宴や式典で着用。

三つ紋：準礼装。親戚の結婚式・披露宴や祝賀会等で着用。

一つ紋：準礼装。親戚の結婚式・披露宴やパーティ、

子供の入学式・卒業式等で着用。



4. 訪問着（ほうもんぎ）

未婚・既婚を問わず着用できる準礼装です。訪問着は、振袖や留袖の次に格が高い着物で着物の柄が襟や袖をまたがって続いています。

格が高い着物なので、同じく格の高い袋帯を合わせるのが一般的です。

結婚式（友人として）、パーティー、お茶会、お見合い、結納など、幅広いシーンで着用されます。



2-1.着物の種類 つづき

5. 付け下げ（つけさげ）

左肩にワンポイントの柄が入った着物。訪問着の次に格が高いです。袋帯を締めれば格を上げることができ、名古屋帯や洒落袋帯を締めれば格を落とすことができます。具体的には、袋帯を締めれば子供の卒業式や七五三に着て行けます。名古屋帯や洒落袋帯を締めれば、お食事会や観劇に着て行くことが可能です。



6. 色無地（いろむじ）

白生地を黒色以外の一色のみで染めた着物。柄は付いていません。格は生地自体に織り込まれている柄の「地紋（じもん）」がついているかどうかで変化します。紋が付いている場合は訪問着と同程度の格となります。袋帯を締めるのが一般的です。紋が付いていない場合、袋帯を締めれば付け下げと同程度の格に、名古屋帯を締めれば小紋と同程度の格になります。



7. 小紋（こもん）

生地全体に柄が入っている着物。付け下げや色無地よりも格が低いです。普段着として着る着物で名古屋帯や半幅帯を合わせます。

小紋には代表的な柄が3つあります。

江戸小紋：無地に見えるほど細かい柄

加賀小紋：一つの模様が大きく、華やかな柄

京小紋：自然をテーマとすることが多い柄



8. 浴衣（ゆかた）

夏の最もカジュアルな着物。主に綿素材で作られています。長襦袢（ながじゅばん）を着ずに素肌に直接着るのが特徴です。他の着物とは異なりおはしりを作る必要もありません。また、草履ではなく下駄を合わせるのも浴衣ならではの特徴です。花火大会、お祭り、夕涼み、温泉地でのリラックス着として親しまれています。



9. 袴（はかま）

着物の上に重ねて履く衣服です。現代では、主に卒業式で女子学生が着用することが一般的です。また、弓道や剣道などの武道でも着用されます。



2-1.着物の種類（アウター インナー類）

10. 羽織（はおり）

- ・着物の上に着るアウターで、洋服でいうカーディガンやジャケットにあたります。
- ・室内でも着用したままで良いとされています（茶室など例外あり）。
- ・防寒や塵よけとして、少し肌寒い季節に重宝します。
- ・丈が短いものが一般的ですが、膝下まである長いものは長羽織（ながばおり）と呼ばれます。



11. 道行（みちゆき）コート

- ・着物用のアウター（コート）の一種です。
- ・四角い襟ぐり（道行衿）が特徴で、前をスナップボタンなどで留めます。
- ・外出時に着用し、室内では脱ぐのがマナーです。
- ・防寒用のほか、撥水加工されたものは雨コートとしても用いられます。

12. アンサンブル

- ・同じ生地で作られた着物と羽織のセットのことです。
- ・ウール素材のものが多く、主に秋冬のカジュアルな普段着として着用されます。
- ・男性の着物では、着物と羽織をセットで着るスタイルが一般的です。



13. 襦袢（じゅばん）

- ・着物の下、肌着の上に着るインナーウェアです。
- ・着物の襟元や袖口から少し見えるため、色や柄合わせも楽しみの一つです。
- ・長襦袢（ながじゅばん）や二部式襦袢などがあります。

ポイント

訪問着は行事需要で最も高値安定。**小紋**は日常・素材用で回転は早いが安価。**振袖**は元値が高い一方、流行に左右されやすく型落ちで急落します。いずれも「現代サイズ」であることが、価値を左右する絶対条件です。

留袖について

結婚式の簡素化やレンタル衣装の普及により自前で留袖を用意する人が激減していること、また家紋の入った留袖（黒留袖・色留袖）は、着物としての格は最高峰だが、リユース品としての価値は極めて低いという状況にあります。有名ブランドや作家物でない限り、一般的な留袖の買取価格は数百円～数千円程度になることが珍しくありません。

紋について

特定の家柄しか使わない珍しい紋よりも、「五三桐（ごさんのきり）」や「揚羽蝶」といった、誰が着ても比較的差し支えないとされる「通紋（一般的に広く使われる紋）」の方が、リユース市場では買い手がつきやすく、価値が維持されやすい傾向にあります。また最近では中古で買った着物の紋の上に、自分の家の紋のシールを貼って隠す方法が定着しています。これにより「家紋があるから売れない」というハードルは少しずつ下がりつつあります。

2-2. 帯の種類

①袋帯 主にフォーマル用の帯として使用される帯

サイズは幅約31cm、長さ約4m20cm以上あり、二重太鼓といってお太鼓を二重に重ねて着付けます。長さが十分にあるため、振袖のときには変わり結びという華やかな帯結びも可能です。

●見分け方

金糸銀糸の使われた豪華な帯であることや、サイズを測り4m以上あれば袋帯の可能性が高い。

②名古屋帯 セミフォーマルからカジュアルまで利用範囲の広い帯

サイズは幅約31cm、長さ約3m50cm前後です。一重太鼓といってお太鼓が1枚の状態になるように着付けます。名古屋帯は織りの帯、染めの帯ともに多く見られます。

●見分け方

途中から細くなっているものは100%名古屋帯。袋帯のように全部は場が同じでも幅が30cm程度で長さが4mなければ名古屋帯といえます。また染め帯の場合は袋帯よりも名古屋帯である可能性が高い。

③半幅帯 主にカジュアルな着物に合わせる幅の短い帯

サイズは幅約15～17cm、長さはさまざまですが3m30cm以上あれば変わり結びを楽しめます。半幅帯は織り・染めともに作られているため、着用する着物や季節に合わせて選びます。半幅帯の中でとくに有名なのは、浴衣に合わせる博多織（はかたおり）の半幅帯です。

●見分け方

半幅帯は袋帯や名古屋帯の半分ほどの幅なので、見分けはつきやすい。



袋帯（礼装用）
- 留袖・振袖・訪問着など

名古屋帯（お洒落着・準礼装）
- 色無地・小紋・紬など

半幅帯（カジュアル）
- 浴衣・普段着の着物など

★丸帯について

最も格が高い第一礼装だが需要小

裏面にも豪華に柄を織り込んだ帯。袋帯2本分の重さがあるため扱いづらく、さらに袋帯にくらべて長さが短いため、一般的に使用されることはほとんどありません。主に婚礼衣装の白無垢や舞妓さんの帯など特別なものとして用いられる。昭和30年代頃から「軽くて楽な袋帯」が主流になったため、現在ご存命の方（70～80代）でも成人式や結婚式で丸帯を使った人は少数派です。

●見分け方

最も格が高い。裏も豪華な総柄。重い。

ブランド 高額帯

2大産地
「西陣（眼鏡証紙）」
「博多（金証紙）」



西陣の3大ブランド

「川島（軍配マーク）」
「龍村」
「山口」



ポイント 帯のポイント

・
・

2-3. 他小物類



①帯締め（おびじめ）

帯締めは、帯の形が崩れないように帯の上から結んで固定する紐です。機能的な役割だけでなく、着物や帯との色合わせによってコーディネートアクセントとなる重要な装飾品でもあります。



②帯揚げ（おびあげ）

帯揚げは、帯枕を包んで隠し、帯の上線（帯と着物の間）に少し見せるようにして結ぶ布です。帯締めと同様に、色や素材でコーディネートに彩りを添え、季節感を表現することもできます。



③帯留め（おびどめ）と三分紐（さんぶひも）

帯留めは、帯締めに通して使うアクセサリのような装飾品です。帯留めを通すための専用の細い帯締めを「三分紐」と呼びます。この二つはセットで使われることが一般的です。



④反物

着物などを仕立てる前の生地の状態。
着物用を着尺、羽織用を羽尺といい、
それぞれ長さが違う
素材も分かればプライスに表記する



⑤半襟（はんえり）替袖 袖口（そでぐち）

和服用の下着である襦袢（じゅばん）に縫い付ける替え襟や替え袖のこと



⑥ほか和装小物

草履
バッグ
かんざし
扇子 など

🔄ポイント

- ・反物以外は**おまとめ**で買い取ることも多い
- ・反物は素材次第？？？

2-4. 素材の種類



①絹（正絹しょうけん・シルク）

和服の素材として最も高級で、古くから愛されてきました。美しい光沢と滑らかな肌触りが特徴で、振袖や留袖、訪問着などの礼装用によく使われます。

通気性・保湿性◎。

振袖、留袖、訪問着など（フォーマル全般）



②綿（コットン）

丈夫で肌に優しい。

自宅で洗えるがシワになりやすい。

浴衣、普段着の小紋、作務衣



③麻（リネン）

麻は、通気性が良く、肌に張り付かないシャリ感が特徴です。汗をかいても乾きやすいため、夏の着物や浴衣の素材として最適です。

速乾性が非常に高い。

夏の普段着、夏の浴衣



④ウール（羊毛）

暖かくシワになりにくい。

冬のカジュアル着に最適。

冬の普段着、アンサンブル



⑤化学繊維（化繊・主にポリエステル）

汚れに強く、洗濯機で丸洗い可能。

雨の日も安心。

練習用の着物、雨コート、最近は訪問着もあり



🔄ポイント

・見分け方（次のページ）

・

2-4. 素材の種類 つづき 正絹（しょうけん）と化繊（かせん）の見分け方

和服の素材が絹100%の「正絹」か、ポリエステルなどの「合成繊維（化繊）」かを見分けるには、以下の3つのステップで確認します。

① 内側のタグを確認する

化繊の着物には、洋服と同じように内側に成分表記タグがついている場合があります。まずは着物を広げて状態の確認と合わせてタグの有無を確認しましょう。



② 燃焼試験（最も確実な方法）ほつれなどから少量の糸を取り、火をつけて反応を見ます。

注意: 実際の査定現場では実行しにくいいため、練習用の端切れなどで感覚を覚えることを推奨します。

素材	燃え方・反応	臭い・残りカス
正絹	ジリジリと縮みながら燃える	髪の毛やタンパク質が焦げる臭い。黒褐色の塊になり、潰すと粉々になる
化繊	「ポッ」と炎を上げて燃える	石油系の臭い（黒煙が出る）。冷えると硬い玉（ダマ）になる



③ 手触りと音（慣れと経験が必要）触感や音の違いでも判断が可能です。

正絹: しっとりと肌に馴染む感覚があり、擦り合わせると「キュッキュッ」という絹鳴りがします。

化繊: 乾いたカサカサした手触りが特徴です。

2-5. 染め・織りによる分類

一般的に、着物の世界では染めの着物は格が高く（フォーマル）、織りの着物はカジュアル（お洒落着）とされています。

① 染めの着物（後染め）

白い糸で織り上げた白生地、後から柄を染めたり描いたりするもので「後染め（あとぞめ）」とも呼ばれます。

特徴

生地が柔らかく、しっとりとした質感（垂れ感）があります。

格

非常に高く、結婚式、式典、パーティーなどのフォーマルな場に適しています。

主な種類

黒留袖、振袖、訪問着、付け下げ、小紋（※小紋はカジュアル寄り）など。



② 織りの着物（先染め）

先に糸を染めてから、その色のついた糸を組み合わせて模様を織り出していくもので、「先染め（さきぞめ）」と呼ばれます。

特徴

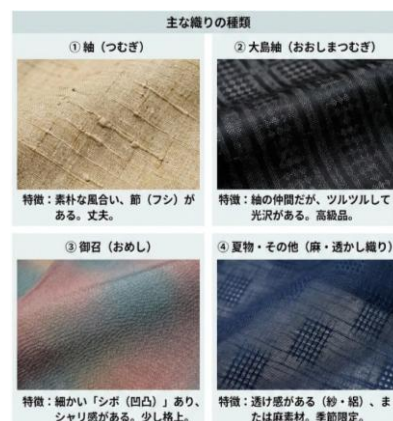
生地は少し硬めでシャリ感があり、丈夫です。裏表に同じ模様が出るのが特徴です。

格

カジュアル。どんなに高価なものであっても、基本的には結婚式などの式典には着用せず、観劇、お食事、普段のお出かけなどに使われます。

主な種類

結城紬、大島紬、米沢紬、銘仙、御召（おめし）など。



2-6. 産地と有名ブランド

証紙（産地証明）について

着物を作る前の反物の端（布の端）に貼られているラベルのことです。
仕立てた着物の場合は生地のはぎれに貼られて付属します。着物を包んでいる「たとう紙（文庫紙）」の中や着物の袖の中、あるいは別の封筒に入れて保管されています。
伝統工芸品としての証ですので必ず商品に添付します。

本場大島紬（鹿児島県）



本塩沢（新潟県）



結城紬（茨城県栃木県）



日本の代表的な織物産地 新品参考価格帯

- 結城紬 ゆうきつむぎ（茨城県・栃木県）価格帯：20万～300万円以上
本場結城紬（重要無形文化財）は手紡ぎ糸・地機（じばた）織りで100万円を超えるのが一般的。
機械織りの「石下（いしげ）結城紬」などは20万円前後から。
- 黄八丈 きはちじょう（東京都・八丈島）価格帯：40万～100万円以上
島の天然染料（八丈刈安など）で染められ、生産数が非常に少ないため希少価値が高い高級品です。
- 越後上布 えちごじょうふ（新潟県）価格帯：100万～300万円以上
麻織物の最高峰。雪さらしを経て作られる極上の夏着物で、数百万単位になることも珍しくない超高級品です。
- 小千谷縮 おぢやちぢみ（新潟県）価格帯：5万～20万円前後
麻素材でシボ（シワ）があり、夏の普段着として人気。上布に比べると手が届きやすい価格帯です。
- 本塩沢・塩沢紬 ほんしおざわ・しおざわつむぎ（新潟県）価格帯：30万～60万円前後
シャリ感のある本塩沢は「塩沢お召」とも呼ばれ、通好みの落ち着いた雰囲気の人気です。
- 牛首紬 うしくびつむぎ（石川県）価格帯：40万～80万円前後
非常に丈夫なのが特徴。無地や縞なら40万～50万円、精巧な絵羽模様などはさらに高価になります。
- 西陣織 にしじんおり（京都府）価格帯：5万～100万円以上（帯の場合）
特徴：織り方や金糸の使用量で幅が広く、振袖用の豪華な袋帯などは30万円～が相場。
- 博多織 はかたおり（福岡県）価格帯：3万～20万円前後（帯の場合）
特徴：締めやすさに定評あり。普段使いの名古屋帯なら5万～10万円前後で高品質なものが手に入ります。
- 久留米絣 くろめがすり（福岡県）価格帯：3万～40万円前後
特徴：綿織物。機械織りなら3万円～、手織りで藍染の重要無形文化財クラスになると30万円を超えます。
- 本場大島紬 ほんばおおしまつむぎ（鹿児島県）価格帯：20万～200万円以上
特徴：マルキ（絣の細かさ）で劇的に変わります。一般的な7マルキで30万～50万円、精緻なものは100万円超。
- 久米島紬 くめじまつむぎ（沖縄県）価格帯：40万～80万円前後
特徴：全ての工程を一人の職人が手作業で行うため、独特の温かみと希少性があり、高値で安定しています。

ポイント

- ・証紙の有無で、価値が大きく変わりますので必ず商品に添付します
- ・

2-7. 売価目安

紬	中古売価
大島紬 反物	10,000円～150,000円
大島紬 きもの	5,000円～100,000円
結城紬 反物	30,000円～100,000円
結城紬 きもの	30,000円～80,000円
その他の紬	5,000円～ 15,000円

着物	中古売価
黒留袖（くろとめそで）	5,000円～15,000円
色留袖（いろとめそで）	5,000円～20,000円
振袖（ふりそで）長襦袢（ながじゅばん）	10,000円～20,000円
訪問着（ほうもんぎ）	10,000円～25,000円
付け下げ（つけさげ）	3,000円～ 8,000円
色無地（いろむじ）	3,000円～ 5,000円
小紋（こもん）	3,000円～ 5,000円
ポリエステル素材（化繊（かせん））	1,000円～ 1,500円
ウール素材（アンサンブル）	300円～ 1,500円

着物 その他	中古売価
浴衣（ゆかた）	500円～ 3,000円
長襦袢（ながじゅばん）	500円～ 1,000円
道行（みちゆき）コート	300円～ 800円
道中着	300円～ 800円
雨コート	300円～ 800円
羽織（はおり）	300円～ 800円

帯	中古売価
丸帯（まるおび）	5,000円～30,000円
袋帯（ふくろおび）	3,000円～20,000円
名古屋帯（なごやおび）	800円～ 5,000円
半幅帯（はんはばおび）	300円～ 2,000円
つくり帯	300円～ 800円

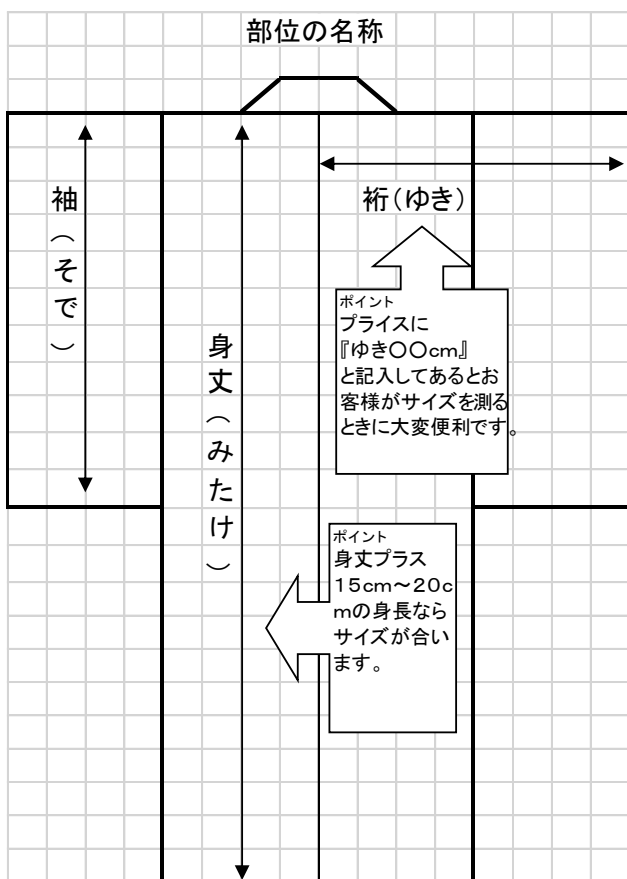
 ポイント

3. 実践

3-1. サイズ

サイズのはかり方

リユースの和服ではサイズがととても重要です。昔の日本人は小柄だったため、丈が短い着物が持ち込まれるケースが多いです。ゆき（衿）が64cmより短い和服は、現代の女性のサイズには合いません。生地として扱います。



必ずプライスに衿（ゆき）〇〇cm を記入します

Sサイズ（適応身長145cm～158cm）
ゆき（衿）64cm。

Mサイズ（適応身長152cm～165cm）
ゆき（衿）67cm。

Lサイズ（適応身長163cm～172cm）
ゆき（衿）69cm。

着物の寸法の中でセンチメートルではなく 尺や寸を使うこともあります。

年配のお客様や着物に詳しい方は「身丈は4尺3寸あるから…」と尺で会話されることもありますのでリバーシブルタイプの鯨尺メジャーを用意しておきます。

1尺 = 37.8cm

1寸 = 3.78cm

※1尺 = 30cm (30.3cm) は建築用の曲尺（かねじゃく）

着物は1尺 = 約38cmの鯨尺（くじらじゃく）



ポイント

- ・ゆき（衿）が64cmより短い着物は生地として買い取りします。
- ・売場にも鯨尺メジャーを用意しておくで親切 & 人的コストの節約につながります。

3-2. たたみ方



- ① 襟が左側に来るようにおく。
手前側を縫い目に沿って折る。



- ② 襟の部分を手前に、
これも縫い目に沿って折る。



- ③ 反対側の襟を手前に持ってきて
重ねる様に合わせる。



- ④ 襟を開き、中心を奥に折り込む。
(赤点線が中心線)



- ⑤ そのまま襟を揃える。
(④の黄色矢印)



- ⑥ 反対側を半分になるように
手前に持ってきて重ねる。



- ⑦ 袖を折り、まっすぐにする。



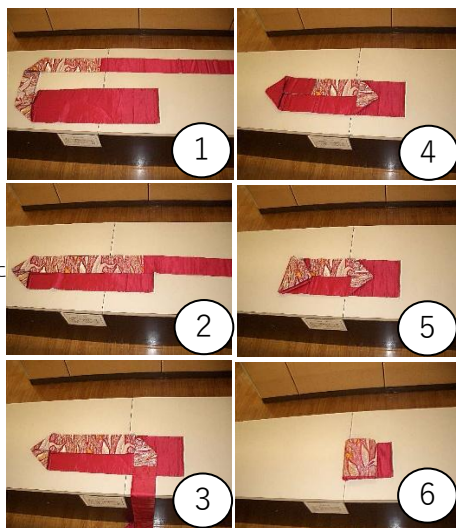
- ⑧ 裾を袖のあたりまで
持ってきて一度折る。
(3つ折りのイメージ)



- ⑨ そのまま3つ折り。



- ⑩ 更に二つに折って
完成。



名古屋帯のたたみ方

細い部分を太い部分
にクルクルと
まいていく要領で
重ねていきます。

最後は一番左の
三角の部分を折り返し
そのまま置きます。

ポイント

・
・

②生産

□生産手順



まず、状態を確認します。

買取時にもシミや汚れ、虫食いなどチェックしましたが、生産時にも再度チェックをかけることで見落としを無くします。

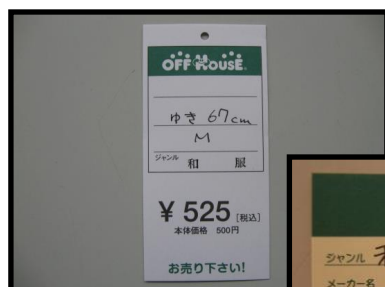
シミや汚れがあつたり、また紋付きであるなどプライスに特筆すべき点を見ていきましょう。



次に身丈・衿を計ります。

和服に興味をお持ちのお客様には

S・M・L表記より身丈・衿を図って明記した方が親切です。寸法（サイズ）の測り方は前項【和服の概要】よりご参照ください。



上記で確認した

【品物の状態】および【寸法（サイズ）】を明記しながらプライスを作っていきます。

基本的には白プライスで良いでしょう。

またガラスケース内に展示すべき高額品や良品は高級感を出すために黄色プライスを使いましょう。その場合、ブランドや素材等、わかる範囲の情報を書きます。



プライスの位置は着物の左脇の下、縫い目の付近にバノックで打ち付けていきます。帯も端の目立たない位置にバノックです。

草履や和装バッグなどはロックスを使いましょう。

箱に入った和装小物セットや袋に入ったものであれば、シュリンクやOP袋を使ってラベラーをつけるのも良いでしょう。

③陳列

一口に着物と言っても夏用で網のような【絹】や冬用でウール素材のものなど、洋服と同じように季節もカテゴリーも様々です。せめて羽織・着物・帯は季節を分けて展示するのが良いでしょう。帯にも袋帯・名古屋帯・半巾帯など種類が多いです。カテゴリーを覚え、探しやすく、並べやすい売り場を作りましょう。以下、陳列の一例を載せますので、売り場作りに是非ご参考ください。



上図はガラスケース内の反物です。プライスは反物の端にクリップでつけてます。キズをつけないプライス添付の一例です。



こちらは和装バッグと中段・下段には箱物がならべられています。



帯が種類ごとに綺麗に並べられています。名古屋帯・半巾帯・造り帯と探しやすい売り場です。



草履・下駄も大人・子供の区別や色で分けるとより見やすくなります。